

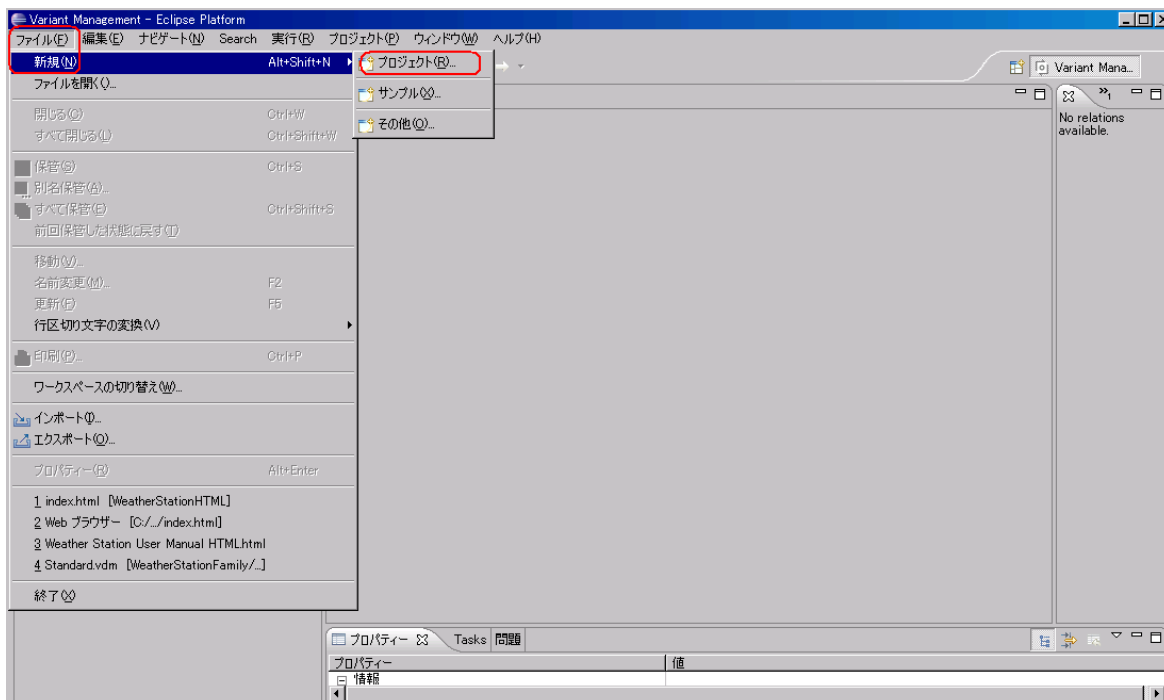
pure::variants – CSV インポーター機能

この資料は、CSV インポーター機能を使って、CSV ファイルをフィーチャモデルにインポートする手順について記述しています。CSV ファイルは、表計算ソフトやデータベースソフトのデータを保存するときに使用されます。また実体がテキスト形式で保存されるので汎用性が高く、異なる種類のアプリケーション間のデータ交換にも使用されます。

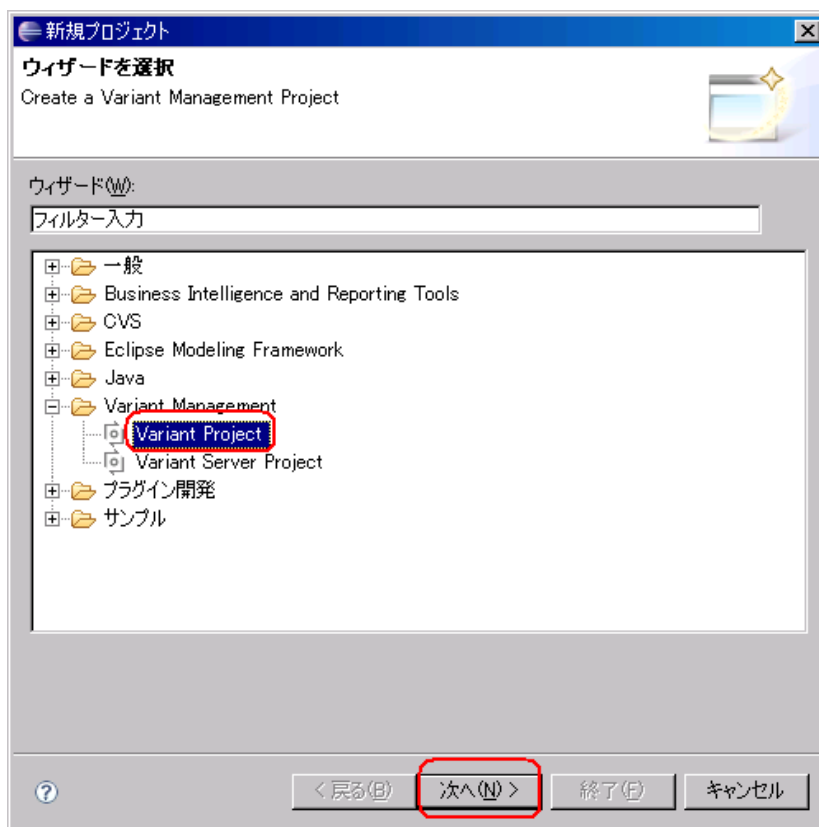
例えば CSV ファイルでフィーチャを管理している場合、CSV インポーター機能を使えば、pure::variants のフィーチャモデルとしてインポートできるので、既存の管理環境から容易に移行させることができます。

[手順]

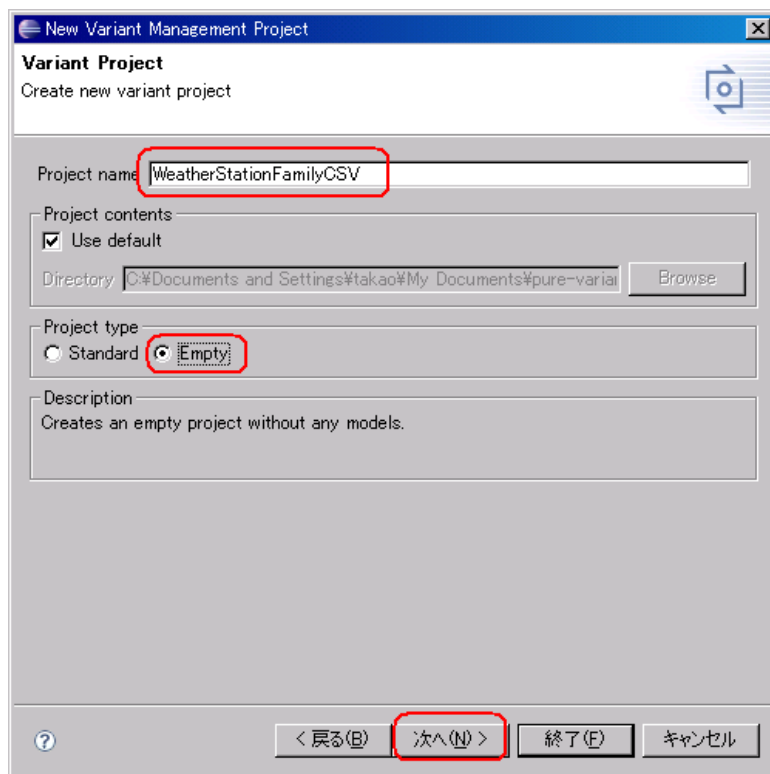
1. 新しくプロジェクトを作成します。“ファイル -> 新規 -> プロジェクト” を選択します。



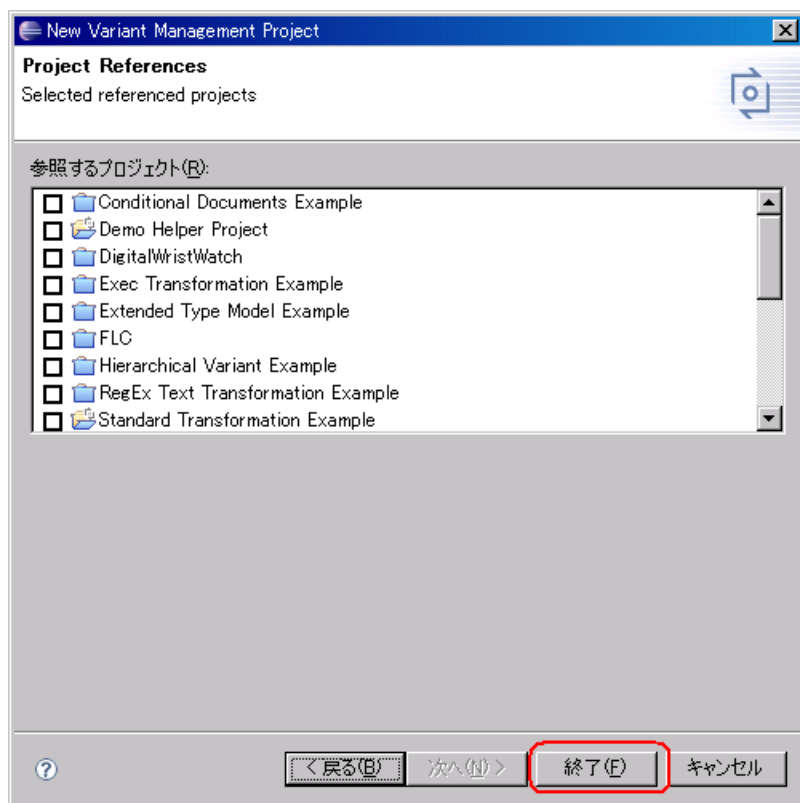
下記ダイアログで、“Variant Project” を選択して次へボタンをクリックします。



Variant Project ダイアログが表示されるので、Project name に “WeatherStationFamilyCSV” と入力し、Project type は “Empty” を選択して次へボタンをクリックします。

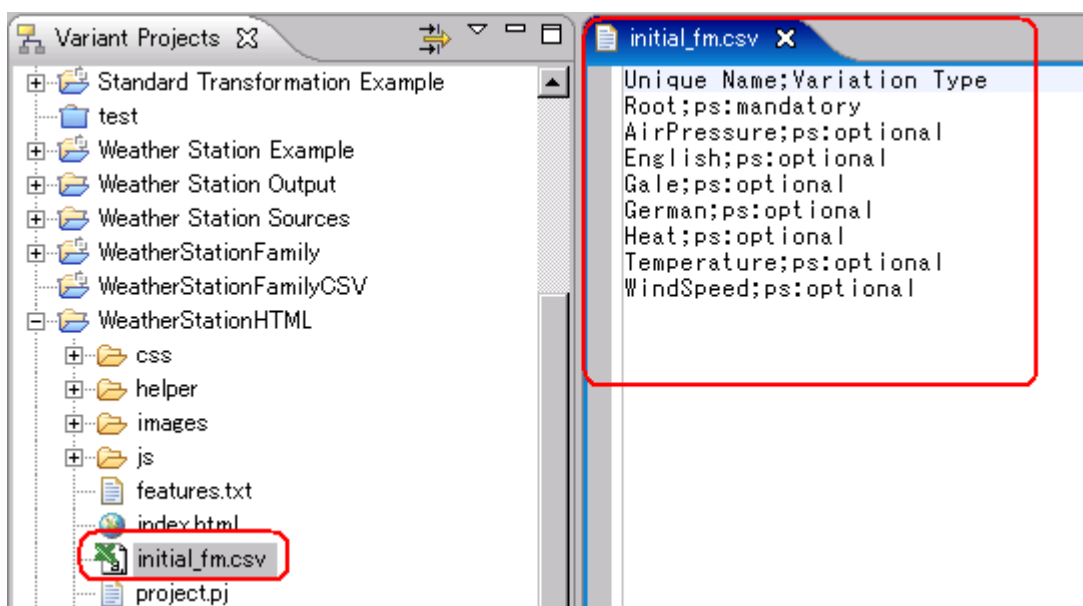


Project References ダイアログが表示されますが、“参照するプロジェクト”は選択せずに終了ボタンをクリックします。



2. フィーチャモデルを作成します。

ここでは、下記“initial_fm.csv”ファイルを使用します。

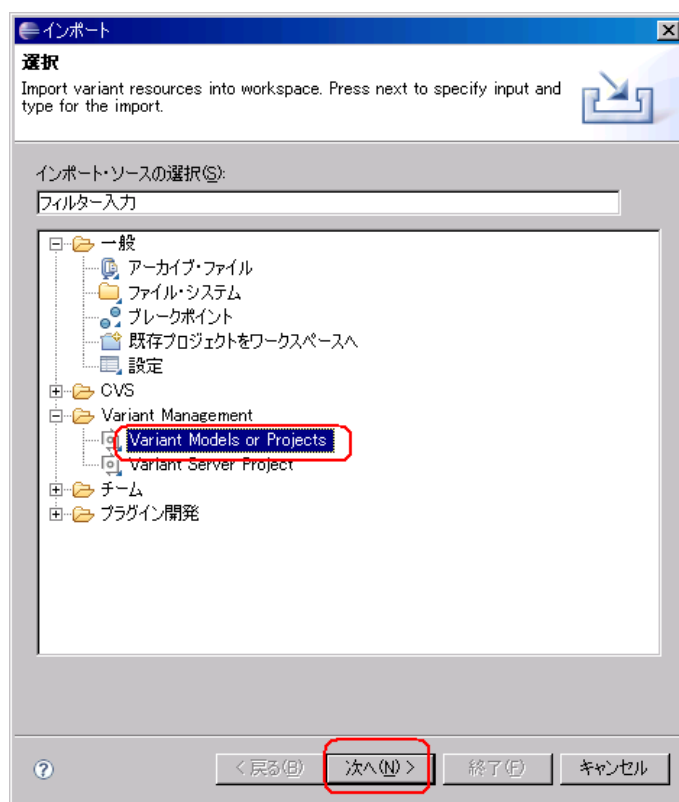


この例では、フィーチャ名とバリエーションタイプだけが明記されていますが、CSVインポーターは、いくつか追加のフィールドもサポートしています。

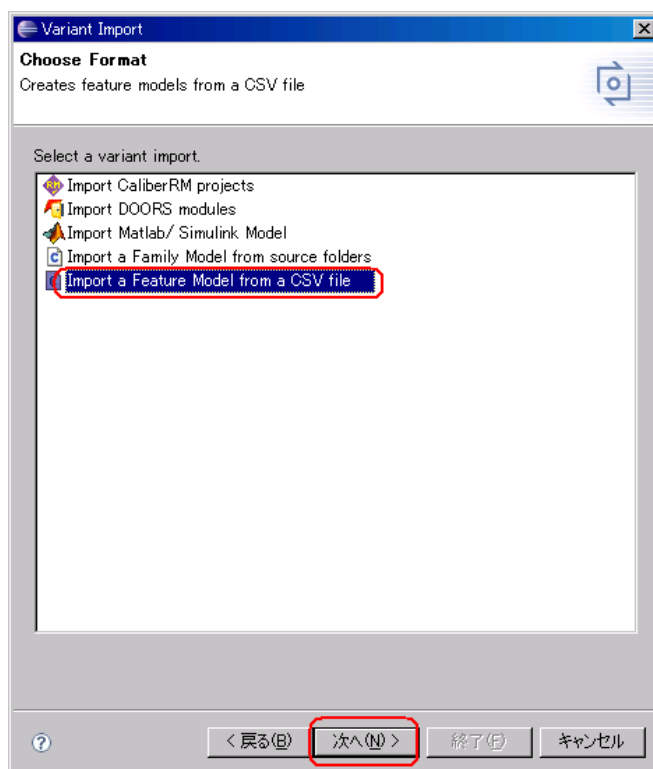
CSV ファイルをフィーチャモデルにインポートします。

WeatherStationFamilyCSV 上で右クリックし、“インポート” を選択します。

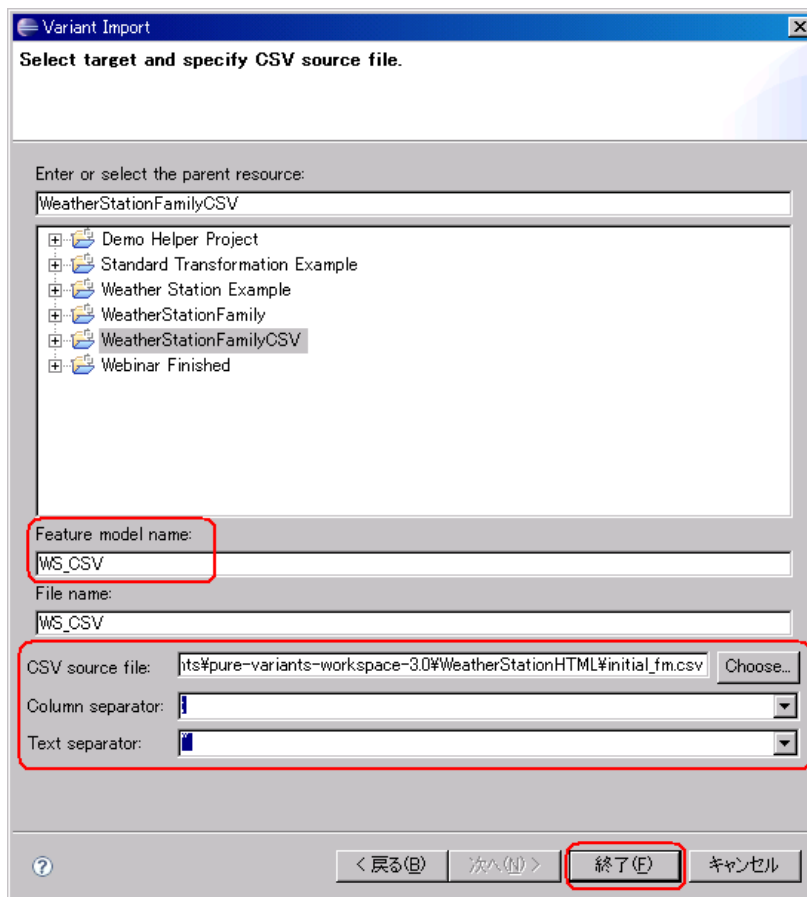
インポートダイアログで、“Variant Models or Projects” を選択して次へボタンをクリックします。



Choose Format ダイアログで、“Import a Feature Model from a CSV file” を選択して次へボタンをクリックします。



フィーチャモデル名 “WS_GSV” と入力し、CSV ファイルを指定し終了ボタンを押します。



フィーチャモデル “WS_GSV” が作成されるので、ダブルクリックして開いてみましょう。
CSV ファイルがフィーチャモデルにインポートされているのがご確認頂けます。

